

## 第5回 第9期長野県高齢者プラン策定懇話会

### 《会議録》

- 1 日時** 令和6年3月13日（水）16:00～17:20
- 2 場所** オンライン
- 3 出席者** 【構成員】 萱津公子 荻原朋美 松本清美 萱垣光英 小林広美 鈴木よし子  
今井祐輔 伝田景光 畑山恵子 松原智文 渋谷菜々花 高橋奈津子  
福島直美 宮澤正人（敬称略）
- 4 欠席構成員** 溝口圭一構成員
- 5 傍聴** あり（Youtube配信）
- 6 会議内容**
- 1 開会
  - 2 あいさつ
  - 3 会議事項
    - (1) [報告] 第9期長野県高齢者プランの策定について
    - (2) 意見交換
  - 4 閉会

### 7 会議経過

#### 1 開会（省略）

#### 2 あいさつ

(発言者)	(発言内容)
福田健康 福祉部長	<p>構成員の皆様方には、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。昨年8月9日の懇話会を皮切りに貴重なご意見をいただき、プランの案をお示しできるまでになりました。</p> <p>人口減少下での介護人材の確保など課題がある中、今後3年間の県の方向性を示させていただくこととなります。</p> <p>プラン案では、「介護人材の確保、介護現場の生産性向上の推進」、それから「地域包括ケア体制の深化・推進による健康寿命の延伸」、「地域の実情に応じた計画的なサービス提供体制の整備」を3本の柱とした上で、県民や関係者と県が目指す姿を、指標をともなって共有できるように、ロジックモデルの考え方も取り入れ、目標と施策を体系化いたしました。</p> <p>このような計画は全国で当県のみと聞いており、萱津座長様をはじめ、取りまとめにご尽力をいただきました構成員の皆様には深く感謝申し上げます。</p> <p>今回で、第9期プラン作成に向けての会議は最後にはなりますが、このプランに基づく今後の施策の推進にあたりましても、皆様からのご指導、ご協力をいただきつつ取り組んでまいりたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>

### 3 会議事項

#### (1) [報告]第9期長野県高齢者プランの策定について

資料を基に説明。

(説明資料)

資料1\_第4回 第9期長野県高齢者プラン策定懇話会意見要旨等

資料2\_第9期長野県高齢者プラン(案)に係るパブリックコメントの実施結果について

資料3\_第9期長野県高齢者プラン(案)の概要について

資料4\_第9期長野県高齢者プラン(案)について

資料5\_第9期(令和6年度～令和8年度)の介護保険料の見込みについて

#### (2) 意見交換

(発言者)	(発言内容)
萱津座長	第9期プラン策定に向けた最後の懇話会となります。今年度のプラン策定や懇話会での意見交換の感想も含め、ご発言をお願いします。 最初に、荻原構成員、いかがでしょうか。
荻原構成員 (認知症疾患医療 センター連携会議 座長)	プランの案を拝見しました。先日、認知症関連の会議があり、認知症の所を含め、すばらしいプランになっていると思います。このプランが市町村に降りてきて、実行する際に、市町村さんが戸惑ったり、動きをどうしていったらよいかわからないなど困ることもあると思いますので、県の方でも指導・支援をしていただければと思います。
萱津座長	貴重なご意見ありがとうございます。ぜひそれぞれの市町村で実効性のあ る計画が実施されたいと思います。それでは、看護協会の松本構成員いかが でしょうか。
松本構成員 (県看護協会 会長)	今回、策定に関わらせていただき、ありがとうございます。私自身もこう いう経験させていただいて、県の立場に3月まではいましたが、外部の立場 で参加させていただき、新たな気づきがたくさんあったと思っております。 ありがとうございます。 計画をいただいて目を通しきれいなんですけど、計画は少し抽象的など ころがあったりしますが、コラムを入れていただいたことで、具体的な取組 や先進的な取組が、わかりやすく入ってきたと感じております。ありがとう ございます。 また、訪問看護のことを目標にさせていただきました。訪問看護事業所は新 しくできていますが、減っている状況です。新しく作っても継続が難しい状 況であります。そのあたり、協会としても、訪問看護総合支援センターもで きましたので、計画にあるように増える方向で、働きやすい環境づくりを進

めていきたいと思っております。

この計画策定には、看護協会の代表者として参加しています。計画について看護協会の中や訪問看護の皆さんなど、看護職にも伝えていければと思っております。企画もしています。その際に、できたらパワーポイントにまとめたデータみたいなのを提供していただくと大変ありがたいと思っております。また事務局さんに相談させていただくので、よろしく申し上げます。

災害の関係で、1月に石川県で災害が起きました。高齢者の皆様が取り残されたり、福祉避難所が被害を受けたりしました。災害で福祉避難所が被害を受け、1.5次避難所ができました。長野県でも1.5次避難所が必要になるのではといわれています。今回の計画にすぐに盛り込むことは難しいと思いますが、災害のことは引き続き、計画の見直しも含めて考えていく必要があると思います。

質問ですが、概要版の2枚目の推進目標3「安心安全な暮らしの確保」のところで、成果指標として、施設入所を希望する理由が「住まいの構造」と回答した割合とあります。この指標の意味合いを教えてください。

萱津座長

ご質問ありがとうございました。事務局の方で今の部分についてご回答お願いいたします。

小林介護支援課  
担当係長

松本構成員、ありがとうございます。

「安心安全な暮らしの確保」の項目では、「住まい」方に関する推進目標として、できるだけ身近であり、希望した場所で暮らすことができるようにすることを目標の方向性としています。施設入所を希望する理由が「住まいの構造」という回答割合が高いということは、自宅での生活を希望しているにも関わらず、自宅のバリアフリー化が進んでいないためにそれが叶わないということの意味していると考えています。特に、公営住宅等についてはバリアフリー化の整備を県、建設部の主要な目標と設定しております。それを進めていくことを含めまして、高齢者等が希望する場所で生活できることに向けて施策を推進するため、この項目の目標に設定しております。

松本構成員  
(県看護協会会長)

ありがとうございます。「住まいの構造」と回答した割合が減っていけばよいということよろしいですか。

小林介護支援課  
担当係長

ご認識の通り、当該項目については「減少」を目標としております。

萱津座長

それぞれの職能団体への周知も含めて、ご意見・ご質問をいただきました。ありがとうございます。それでは、高齢者事業を展開していらっしゃる

萱垣構成員、ご感想、ご意見ございますか。

萱垣構成員  
(県高齢者福祉事  
業協会 会長)

色々お世話になります。今回の色々な資料を見まして、全てを網羅したわけではありませんけれども、コラムであったり、あるいはデータが添付されていたりと、読まれる方が、なんとなくイメージが掴めると思いました。本当にご苦労様でございました。私も計画が良くなったと改めて感じているところであります。

色々心配なことはありますが、その一つに介護報酬は1.59というプラス改定ですが、唯一、訪問介護はマイナス改定になっていることがあります。

東京新聞系の中日新聞で全国のホームヘルパー事業所の36%が赤字決算であると記事になっていました。以前から言われていますが、都会のホームヘルパー事業所は7~8%という数値がでていますが、中小のホームヘルパー事業所は利益率が悪いです。以前も、前年度に比べて3割の訪問介護事業所が閉鎖したというデータがありました。訪問介護事業は一人暮らし、認知症、老老介護など様々なケースを手厚くみていただくところであります。なんとか、訪問介護だけは、県としてアシストができないかと思えます。訪問介護がなくなると困りますので、心配なところであります。

介護報酬に関連して、デイサービス事業所も厳しい状況に置かれています。私が住んでいるところでも事業所の閉鎖等の流れがあります。基本的には人材の問題が一番大きいと思えます。行政と各事業所が問題を共有できるシステム、課題を一緒に解決できるシステムが必要だと思えます。県の方にもお願いしながら、市町村にもそのような指示を出してもらえると有難いです。

萱津座長

ありがとうございました。事務局から補足の説明、何かございますか。

今井介護支援課  
長

訪問介護の件、新聞報道されているとおりで、基本報酬はマイナス改定となっています。収支差率が7パーセント以上あったということで、下がったという実績になっています。都会の話や中小のホームヘルパー事業所の状況といった議論もありましたが、最終的にはマイナス改定となりました。

県としては、より高い処遇改善加算を取得いただけるよう考えてまいりたいと思えます。訪問介護は1番高い加算率といわれております。まだ処遇改善加算が取得できていないところや、より高い加算を取得していこうというところには、県の方でもアドバイザーを派遣するなどの支援を行っていきたいと考えています。なるべく取得できるものは取得していただく方向で支援はさせていただきたいと思っています。

来年度、報酬改定の影響調査をアンケート形式になるかと思えますが、実施を考えています。そういった状況を踏まえ、国への要望を考えていきたい

と思います。行政と事業所で共有できるような、そういった場はおっしゃる通りかと思います。認識を共有しながら、高齢者の施策を進めていきたいと思っています。

来年度は、生産性向上に関連しますが、事業所の皆さんとお話しする場を設けまして、生産性向上や課題を共有しながら取り組んでいきたいと考えております。またご協力等いただくかもしれませんけれども、引き続き、よろしくお願ひしたいと思っています。

萱津座長

ありがとうございました。それでは、デイサービス関係の意見も出ましたところで、構成員の伝田様、何か感想とかご意見ございますか。

伝田構成員  
(認知症の人と家族の会 長野県支部 代表)

デイサービスは大変になってくるんですかね。本当にうまくやっているところとうまくやってないところの差が明確に出てきているように思います。

うまくやっているところは、何をうまくやっているのか、その辺をもう少し掘り下げないといけないと思います。単純に苦しい苦しいといっても、稼働率50パーセントであれば、苦しいです。稼働率が悪いのは、なぜかとなるわけです。なかには、稼働率9割、10割を維持しているところもあります。その違いも少し掘り下げる必要もあるかと思っています。立場的に連絡会ではないですが、そのあたりが必要かなと思います。

高齢者プランには3期ほど関わっています。そもそも増えてくるお年寄りをどうしようかということが大前提でやってきたと思いますが、そこに認知症が国家戦略になり、認知症がトピックスになり、その後、災害もトピックスに入れないといけないとなりました。よく見ると、高齢者プランなのに若年性認知症の部分も入ってきています。高齢者プラン自体がてんこ盛りになってきています。実態に合わせ、変えられなければ、どうしようもないですが、もりだくさんになっていると思います。

デイサービスもですが、いろんなテーマを掘り下げていくには、このスキームではだんだん無理があるように、私自身は少し感じています。ばらすわけにいかないと思いますが、それぞれのテーマを、これでまとまりました、終わります、というのはあまりにももったいないです。これ以上、仕事を増やすのも申し訳ないと思いますが、やはりそれぞれのテーマについて社会の実情に合わせ、掘り下げていかないといけない人が増えていると思います。高齢者プランという枠でつくることにそろそろ無理がきていると感じたところでは。

萱津座長

ありがとうございました。なかなか、高齢者に関わると背景にいろいろ問題が出てきて、様々な課題が見えてくるために、高齢者に関わったところから、入口が広がってきているのかなと思っています。

今井構成員  
(県宅老所・グループホーム連絡会  
理事長)

それでは、今井構成員、何か感想などございますか。

今回、第9期プランに携わらせていただき、ありがとうございました。

多岐に渡る話で、それぞれの項目が結構なボリュームがありつつ、なかなか全てが重点というわけにもいかない中で、このような形で体系を整えていただき、とてもいいものができた感想としては思っております。

基本的にアンケート等でもあるとおり、自宅で住みたい、地域で住みたいという要望の中で、長野県としてどういうことができるのかということになります。中山間地域があるなど、それぞれの地域でばらつきもある中で、1つにまとめることは本当に難しいことだと思っております。

そんな中で、やはり自宅で過ごしたい、また自宅で亡くなりたいというところの話で、在宅等での看取りの指標が出ていますけども、ここは引き続き、自宅という数値を確実に見ていっていただきたいです。

選択の自由なので、住まいの選択はご本人、ご家族での話が重点ですけども、在宅で暮らすことができるというところ、地域という部分を追っていただきたいと思っております。

先ほど来、訪問介護の話も出ておりますけども、当会も訪問介護事業所を行っているところであります。人的な不足の中、本当にきつい中、この間の報酬改定の話は落胆もあるわけです。ここもプロの訪問介護がやるべきものなのか、そうじゃないものなのかということをしかりと区分けしていく必要があると思えます。

地域包括ケアの推進ということで、今回、目に見える形で可視化というものが出ているかと思えます。各市町村のあり方も違うと思えますので、そこをしかり追っていただいて、本当にプロの訪問介護が必要な身体介護であるのかを考え、プロではないといけないものにやはり特化していくべきだと思います。ごみ出し、見守りなど色々あると思いますが、そういったところは地域支援コーディネーターの活動をもっと見える化をしていただきたいです。地域ケア会議等で、話し合いをして、地域資源を豊富にしていかないと、本当に専門職は枯渇していくと思えます。もう増えていくことが難しい状況だと思いますので、そこをどういう風に地域で支えていくかという1点だと思っております。

デイサービスの話も先ほどありましたが、やはり通いの場が増えていく中で、その住み分けというところも出てきます。専門職として地域密着型デイサービスは大規模、中規模等ありますが、それぞれが地域で担う役割を次回の第10期に精査ができればと私自身は思います。本当にこの業界、人手がない中で、その専門性をいかに生かすかが、行政や地域の要になるところだと思います。そこを生かすも殺すも、やはり地域資源をどう生かして掘り起こして豊かにしていくかにかかっていると思えます。

第10期になるところで、見える化したものを、本当にどういう成果があったか見ていきたいと思います。多分、今回初めてこのような可視化というものが出ましたので、そこを見て、また3年後、どういう形でこれが達成できたのかというところを本当に楽しみに、本当にやったねというような話ができるようにしていきたいと思います。私たちの団体も応援というか携わってきたいと思いますので、ぜひ今後もよろしく願いいたします。

萱津座長

ありがとうございました。すでに3年後を見据えてという期待も述べていただきました。それでは、訪問介護も含めて人材確保の件で、鈴木構成員、ご意見・ご感想、ございますか。

鈴木構成員

(県介護福祉士会  
会長)

今回、9期プランに関わらせていただき、ありがとうございます。

人材の確保または定着が1番の課題になっております。職能団体として何ができるか、今回のような横のつながり、縦のつながり、地域のつながりの中で、どのようなことができるか考えないといけないと思います。

先ほどから出ていますが、課題となっているのが、やはり訪問介護の減算です。やはり介護福祉士の中でも、「こんなに頑張って地域のためにやっているのに」という意見は出ておりますし、「これで何を頑張ればいいんだ」という声もあり、モチベーションが持てないという現状も出ております。だからといって、そのままにしておくのではなく、やはり逆に、成果を出して、本当に訪問介護というものが必要なのだということを見せていかないといけない、広報していくことがこれからの課題と改めて思っています。

専門職だけではこれから本当に足りなくなります。介護補助やすきまサービスなども利用しながら、生活を支えていくことがこれから本当に大事になっていくのかと思います。専門職でなければできないこと、専門職だからこそできること、そんなところを前面に出しながらやっていけたらいいと思っております。

今、色々、ICTの関係が進んできまして、介護ロボット等の導入をこれからやっていくわけです。導入には本当に賛成ですし、良いと思っております。ただ、現場に入れても、それをどんなふうに使っていくのか、またそれをマネジメントできるような職員がいなければ、ただ入れただけになってしまいます。研修なども強化していかなければいけないと思います。人手不足の補助にならず、逆に忙しくなってしまう場合もございます。分析しながら、それこそ3年後、本当に生産性ということで、介護ロボットを入れる施設等が増えていくというデータが出てくることを楽しみにしています。またどんな成果があったかまで分析できたらいいなと思っております。

いずれにしても、介護職の現場としては、今回、嬉しいような悲しいような、結果が出ました。これに対して、今まで以上に介護の魅力や、介護

だけではなく福祉現場の魅力というものをどうにかして伝えていかないといけないと思います。やはり県の皆さんにもご協力いただいて、みんなでいい知恵を出し合ってやっていけたらと思います。

今回、みんなで話し合い、これだけのプランができたということは、本当に成果でもあります。これを機にもっと一步進んだマネジメントができ、次につなげていけたらいいなと強く思うところです。

萱津座長

貴重なご意見ありがとうございます。事務局で補足はよろしいですか。

今井介護支援課長

ありがとうございます。ICTやロボットの話もございましたが、マネジメントなど、どう使うかという部分については懇話会で鈴木会長からもお話をいただいております。今回、生産性向上の相談窓口をつくりまして、相談に対応したり、アドバイザーを派遣したり、研修も実施する予定であります。またその辺りご意見伺いながら進めていきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。

それと、介護福祉現場の魅力発信は非常に大事なことだと思っております。これから高齢者が増えていく中で、介護報酬改定も今年あり、注目が高まっています。

福祉現場の魅力というものを広く伝えていくことは大事であると思っています。ウェブサイト等をつくり、高齢者プランの趣旨を広めていきたいとも思っております。また皆さんにご意見を伺いながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

萱津座長

ありがとうございました。福祉サービスをコーディネートし計画を立ててマネジメントを行う介護支援専門員協会の小林構成員、何か質問や意見、それから第9期のプランに関わった感想でも結構ですので、一言お願ひいたします。

小林構成員  
(県介護支援専門員協会 会長)

介護人材の不足はこれからもどんどん進むと思います。やっぱりどうしても高齢化の進行と少子化の中、どこの人材も不足しているので、やはり不足がこれからも継続していく課題であると思います。

先ほど、ロボットの話が出ておりましたが、ICTをどう活用していくかが重要です。今回の制度改正の中でも業務の生産性が謳われています。これから何年間かの中に介護現場の中でもICTの活用が始まってくると思います。

次の国の改正の中では、医療プラットフォームや介護基盤など、どんどんデータが連携していくという話も出ています。やはりデータ連携や情報共有にICTを活用していくことも増えてくるのではないかと思います。

介護支援専門員の立場でいわせていただくと、まだまだ進んでいない介護の請求システムがこの3年間の中でしっかりと定着していくものになるな

ど、データ連携がしっかりと定着していくことが大事かと思います。ケアマネジャーだけ頑張ってもデータ連携システムは進んでいかないので、県の方からも各市町村等に働きかけながらデータ連携システムが進むような形をとっていただきたいところがひとつあります。

あと、先ほどコーディネーターのお話も出ておりましたけれども、地域に色々なコーディネーターさんがいます。認知症のコーディネーターだったり、地域のコーディネーターさんだったり、たくさんのコーディネーターさんがおられ、それぞれのコーディネーターさんの立場で活躍されています。高齢者だけではなく、障がい者も含めてこれから共生社会をつくっていくという状況の中では、コーディネーターさんのご活躍はすごく大事な部分だと思います。コーディネーターさんたちがそれぞれの立場で、各地域で連携できるようなシステムができていき、共生社会に向けてまた1歩でも2歩でも進んでいけるといいなと期待しているところです。

萱津座長

ありがとうございました。専門職がやるべきところとそうでないところで、地域の方々の力を生かすという点では、畑山構成員、ご感想やご意見ございましたら一言お願いします。

畑山構成員  
(県長寿社会開発  
センター 推薦)

この会に参加させていただいて、とてもいろんなことを経験、体験させていただきまして、ありがとうございます。

介護の仕事は今も続けていますが、この間、精神保健福祉ボランティア養成講座がありまして、子どもたちと接する機会がありました。どのように接していいかわからなかったのですが、講座を受講したところ、同じ方向でお話するだけでもいいよと聞きました。ならば、資格のない高齢者の人たちがそういうところに行き、一緒にお話するというボランティアもあると思いました。これから、健康寿命を少しでも長くするため、アクティブシニアとして仲間を増やし、楽しいことを1つでも多くしていきたいと思っています。高齢者の中にいる私の感想です。とても勉強になりました。これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

萱津座長

ありがとうございました。地域資源として生活支援コーディネーターもやっている松原構成員、ご感想またはご質問・ご意見をお願いいたします。

松原構成員  
(信州くらしの支  
えあいネットワー  
ク)

ありがとうございます。第8期に続き、第9期も策定懇話会に参加させていただきましてありがとうございます。

プランが第7期、第8期、第9期となる中で、地域資源、地域住民という専門職以外の力が強調されてきていると感じています。

そして、生活支援コーディネーターとしましては、活動してみてわかるの

ですが、人的な資源という言い方がいいかどうかですか、地域には人的にも本当にたくさんの力が眠っていることを実感します

つい先日、70歳後半の方がシルバー人材センターの仕事が終わるので何かできないかといらっしゃいました。何かをやりたいというアクティブシニアの皆様と活動の場をどうつないでいくか、ここはコーディネーターとしても非常に大切なところ、これから求められるところだと感じています。

プラン案、私も全部見られていませんが、人口はこれから減り、高齢化率が上がっていく中で、正直なところ状況はこれ以上良くなれないと思います。そうした中、地域資源が注目されているというのはわかります。その中で、プラン案の本文の52ページに関連データとして、「今後の自宅での生活の継続に必要と感じる支援やサービス」というグラフを掲載していただいております。地域での生活を維持するために、自宅での生活の継続のためにこれだけ必要とされていると思いました。これは別に答えてくださいという意味ではないですが、私は結果を見て、元気高齢者の方よりも、居宅要支援・要介護者の方々が、項目ごとに必要と感じる割合が低い傾向にあると思いました。有意な差があるかどうかまではわかりませんが、もしかしたら、まだ今の時代は、ギリギリ、ヘルパーさんや介護保険のいろんなサービスで耐えているから、そこまで元気高齢者に比べて居宅要支援・要介護者では割合が高くないのではと読み取っています。ただし、おそらくこの状況も長くは続かないと思います。今まで当たり前続けてきた暮らしが、高齢に伴ったりとか、ご病気になったりとか、途端に難しくなることがあります。そういった人たちのために、地域で、住み慣れた地域で暮らし続けることを支えるための地域包括ケアシステムだと思います。

やはりこうしたところ、先ほどから出ております専門職の方々、行政で支えていくことが大事ですが、それだけではなく、住民自身が自分たちができる範囲でやっていくことも大事だろうと思います。そういったことを、私たちの立場としては、地域住民の方々にも発信をしていかなければいけないと思います。

そうした中で、県のプランは、当たり前ですが、県民のためのプランですので、ぜひ県民の皆さんにこれをどのようにお伝えしていったらいいか考えていく必要があると思います。県の方々がお伝えするという意味合いだけでなく、私のような立場のものが自分で咀嚼をして、こんな状況なんだよということをお伝えしていくことも非常に重要と感じております。

私も自分の立場で、今回の懇話会で学んだことを地域の方にも伝えていきたいと思っておりますし、私自身の活動にも還元していきたいと思っておりますので、引き続きお願いしたいと思っております。



福島構成員（高森町健康福祉課課長）

ありがとうございました。この会議に参加させていただいて、なかなかお話しする機会のない職種の皆さんからご意見を頂戴できたことは、私にとっても大変貴重な時間でした。町の今回の計画にも大変参考になりました。ありがとうございました。

特に私は、畑山構成員のご発言が非常に印象深いものでした。高齢者という括りでくくっていいのかなって思えるくらい、とても大切なことをお伝えいただいたと感じました。そういう年の取り方ができる人が地域に多くなることで、こういった計画もよりも実現性が高まると思います。

高森町くらいの小さい町ですと、各地域、サロンをしても高齢化が進んでいて、サロンの継続すら難しくなっています。どうのようにやっていくかといった時に、行政とするとまちづくりというところをもう一度見直し、地域づくりをきちんとすることが大切だと考えています。私たちくらいの年代の時から地域づくりに参加していくっていうことをもっとやっけていかないと、将来、高齢者になった時にそういう思いになれないのかなということをお聞きさせていただいてとても強く感じたところです。

行政としてどこまで果たせるかもあります。これから県の皆さんにもご協力いただきながら一緒にやっていきたいと思っています。大変貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

萱津座長

ありがとうございました。それでは、地域包括支援センターの負担軽減という課題もある中で、千曲市の宮澤構成員、ご感想とかご意見ございましたらお願いいたします。

宮澤構成員  
（千曲市地域包括支援センター）

第9期の計画に参加させていただきまして、大変ありがとうございました。いい経験になりました。

まず、県の計画ですけれども、ロジックモデルという考え方に基づいた計画ということで、当市の計画にも非常に参考になったところがございます。またこの計画は、目標に向けて何をしていくかが非常に示されており、県民の皆様にはわかりやすいのではないかと思います。

市の第9期計画を策定するにあたりまして、介護事業所の基盤整備というものがありますが、どうしても介護の人材不足のところも兼ね合いとしてあり、どこまで踏み込んでいったらいいのか大変悩むところではございました。プラン案の目標4に介護人材の確保の項目を目標にされているので、大変良いという感じがいたしております。

パブリックコメントにもありましたが、市町村にとって、地域ケア会議は個々の課題の解決にとどまっているということで、地域の課題やその解決までできていないといったような状況とありました。私どももマンパワー不足でもあり、突っ込んだ解決までいかないところがございます。

また在宅の高齢者を支援する生活支援コーディネーターの活動についても、イベント的な活動はできていますが継続的な活動にはまだ結びついていないといった部分もございます。この計画の中で、施策の方向性に市町村等への支援ということが謳われておりますので、力強く感じているところではございます。

萱津座長

ありがとうございました。では最後に、公募委員として手を挙げてくださった高齢者福祉をこれから支える中心的な活動をする渋谷構成員、計画に関わってみての感想でも結構ですので、一言お願いします。

渋谷構成員  
(公募委員)

私は学生という立場で参加し、本当に貴重な経験をさせていただいたと思っています。ヤングケアラーなど自分と年齢に近い人たちの課題に関しては、割と近い感覚で意見を出せたかなと思っています。学生だからこそ出せた意見もあると思いますし、今後、高齢化が進んでいく中で、自分が年を重ねた時にどういう社会になっているだろうか、どういう資源があったら自分は生きやすくなるのかっていうことを考えるきっかけになったので、大変勉強になりました。ありがとうございます

萱津座長

ありがとうございました。ご出席の皆さんから一言ずつご感想、またご意見、質問いただきました。全体を通しての意見交換はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

構成員の皆様からいただきましたご意見、ご感想は、ぜひこれからの各市町村の計画等にうまく反映するような形で県として、支援をしていただけたらと思っています。

事務局で今後、確定後に修正する数値等の箇所に関しては座長に一任ということによろしいでしょうか。皆様の同意が得られましたので、当懇話会として計画案を了承することにしたいと思います。

それでは、予定していた会議事項が終わりましたので、ここからの進行は事務局と交代したいと思います。本懇話会の最後にあたり、私からもご挨拶をさせていただきたいと思います。

第9期長野県高齢者プラン策定におきまして、構成員の皆様それぞれの専門の立場で、忌憚のないご意見を頂戴し、ご協力をいただき、ここまで進めることができましたこと心から感謝いたします。あわせて、皆様からのご意見やパブリックコメント等にこたえ、わかりやすく第9期高齢者プランの原案を完成していただきました県の職員の皆様に敬意を表したいと思います。

この高齢者プランは、県内それぞれの市町村の地域性や独自性を反映した計画となり、実施されるとともに、高齢者とそれを支える県民が長野県の中で生き生きと暮らせることを祈念して、この会を閉じたいと思います。皆様

ご協力ありがとうございました。

#### 4 閉会

(発言者)	(発言内容)
今井介護支援課長	<p>構成員の皆様、本日はお忙しいところ、お集まりをいただき、ご意見等いただきましてありがとうございました。萱津座長、構成員の皆さんありがとうございました。</p> <p>この懇話会は5回開催し、多くのご意見、ご感想をいただきました。また場面、場面でご意見等も頂戴してまいりました。本日も皆さんから、ご意見、ご感想等をいただきまして、よいプランができたとおっしゃっていただきましたこと、素直に受けとめさせていただきます。</p> <p>しかしながら、これからどう実効性のあるものにしていくかが重要であります。これからの3年間で基盤であり、あらゆる道筋や方向性をつくっていく3年間になろうかと思えます。県だけでは方向性は決められませんし、やはりいろいろな皆様と対話をしながら共に創っていく「対話と共創」が大切だと思えます。高齢者が増えますと、価値観も多様化し、様々な課題が出てくるかと思えます。その部分につきましてもご助言いただきながら進めていきたいと思えますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>最後に皆様のこれからのご活躍をご祈念いたしまして、御礼のあいさつとさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。</p>

以上